



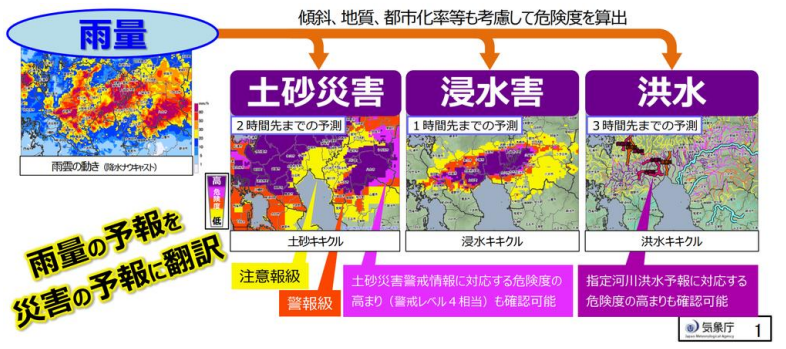
「集中豪雨」によって各地で被害が発生しています！ 激甚化する豪雨・土砂災害から命を守るために

日頃の「備え」と「実踏訓練」を職場からつくり出そう！

「集中豪雨」によって各地で建物への被害に加え道路等被災し、避難者をはじめ生活に大きな影響が出ています。7月3日、静岡県・熱海市では土石流が発生し7名が亡くなり、27名が行方不明となっています。（7月6日時点）。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

豪雨災害や土砂災害の脅威に直面したことで、「どのように命を守ればよいか」を多くの方が痛感しているのではないのでしょうか。気候危機により地球の高温化が加速したことで、雨の降り方も変化しています。日本の治水が過去の降雨実績を基準に設計されていることも踏まえると、豪雨災害は今後さらに厳しい状況となると考えて行動していくことが求められています。

避難をする上で判断基準となる避難情報も変化しています。気象庁は5月20日から新たな避難情報の運用を開始し、さらに6月17日から、『**顕著な大雨に関する情報**』の運用を開始しました。これは、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線上の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所を振り続けている状況（＝「線状降水帯」）による大雨が確認された際に、警戒相当情報を補足する情報として、警戒レベル4相当以上で発表します。こうした避難情報を有効活用するとともに、避難情報が間に合わない場合も踏まえた上で、**早目の避難・安全確保のための行動を取ることが大切**です。



土石流が発生した熱海市では土砂災害が想定される場所が広範囲にわたって存在しています。特に、伊豆山付近では「土石流危険溪流」「急傾斜地の崩壊」「地すべり」の危険箇所が密集しており、東海道線の線路もその地域を通っています。

線路が敷設された場所の地形やリスクをきちんと把握することは、お客さまと仲間の命を守るうえで極めて重要です！

職場の仲間からは「駅間で運転見合わせの場合、どう避難するのか」「土砂災害は雨に対しての警戒が必要」「普段から危険を想定し、危険箇所を把握。早めに規制、早めの避難が大切だ」といった意見が出されています。列車運行中の被災を想定し、各職場から実踏訓練をつくり出していきましょう。